

母校の歩み

三重朝明両郡全圖



一 教 沿
般 育 革
略 略
史 史 史

出 出
朝 朝
廷 廷
「王政復古」の
大 大
号 号
令 令
を を
 (一・一・三)

五 五
ヶ ヶ
条 条
の の
「御誓文」を
発 発
布 布
 (一・四・六)

明 明
治 治
と と
改 改
元 元
 (一・一〇・三三)

諸 諸
藩 藩
版 版
籍 籍
奉 奉
還 還
 (二・七・二五)

可 可
 (三・一〇・一三)
平 平
民 民
に に
姓 姓
(苗 苗
字 字)
の の
呼 呼
称 称
を を
許 許



寺小屋と私塾

寺小屋と私塾は庶民の教育機関として、江戸末期に全国で数万も設けられ、日常生活に必要な手習い、読物、そろばん、学問等を教えていました。その後、これを母体に小学校が発達しました。

地区の寺小屋・私塾

唯福寺(東阿倉川)

住職教正師は四日市万古を作るかたわら、近所の子どもを集めて、読み書き、そろばんを教えていました。



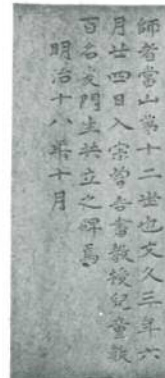
資

料



正福寺(本郷町)

碑文に「文久3年より正福寺で学んだ生徒100名」とあります。寺小屋正福寺説教場は本校開校の場所と推定されます。



悟真寺(野田町)

住職吉田諦然師が村の子どもを集めて手習いを教えていました。

東阿倉川の私塾

本校の第4代校長石川又一郎先生の父、鈴木清孝氏は東阿倉川郷倉の西方窪地に私塾を開き、近所の子弟の教育にあたっていました。

廃藩置県（四・七・一四）

文部省設置（四・七・一八）

区（朝明郡）がおかれた
第一大区（三重郡）と第二大
行政区画が定められ三重郡に

学制公布（五・八・三）

小学教則発布（五・九・八）

小学教則改正
（六・五・一九）

学 制 公 布



学 校 制 度

学校系統を大学、中学、小学の3段階とし、小学校は上等、下等に分かれ、6～13歳までの8年を原則としていました。

	下 等 小 学								上 等 小 学							
年令	6	7	8	9	10	11	12	13								
級	8	7	6	5	4	3	2	1	8	7	6	5	4	3	2	1

小学教則発布

学制発布の翌月（明治5年9月8日）文部省布達番外として小学教則を公布し、教科課程と教授方法の基本方針を明らかにしました。

下等小学八級「綴字」授ケ方ノ一例

生徒残ラス順列ニ並ハセ智慧ノ糸口ウひまなひ絵入智慧ノ環
 一ノ卷等ヲ以テ教師盤上ニ書シテ之ヲ授ク前日授ケシ分ハ一人
 ノ生徒ヲシテ他生ノ見エサレルヤウ盤上ニ記サシメ他生ハ各石
 板ニ記シ畢テ盤上誤謬アラハ他生ノ内ヲシテ正サシム。

下等小学第八級 教科・週時間数

綴 字（カナツカヒ）	6時
習 字（テナラヒ）	6時
単語読方（コトバノヨミカタ）	6時
洋法算術（サンヨウ）	6時
修身口授（ギョウギノサトシ）	2時
単語暗誦（コトバノソラヨミ）	4時

（明治5・11・10）
（文部省布達番外）

明治4年廃藩置県が行なわれ、文部省が設置されると、江戸時代からの諸学校の普及を基礎に、欧米諸国の教育制度を参考に新しい学校教育制度を創始することになり、「……必ず邑に不学の戸なく、家に不学の人なからしめん事を期す……」という太政官布告とともに、109章からなる「学制」を全国府県に頒布しました。

この「学制」は「大中小学区ノ事」「学校ノ事」等6項目からなっていました。

学区制の採用

全国を8大学区に分け、各大学区をさらに32の中学区に分け、各中学区を210の小学区に分け、小学区は人口約600人を基準とし、これに1小学校を設けることにしていました。

める
官立学校は日曜日を休日と定
(七・三・二〇)

海蔵学校創立(八・七・二)

定
(八・一一・二五)
太政官、「文部省職制」を制

海蔵学校の創立

明治5年の学制実施で以前の寺小屋・私塾は廃止され、明治6年から8年にかけて全国で24,000程の小学校が設立されました。

本校も戸長、学区取締りの努力、村民の熱意により、学制実施3年後の明治8年7月1日、末永村正福寺を借用して「海蔵学校」が開校されました。

学区制の採用で三重県は第2大学区に属し、三重郡は第35番中学区に入っていました。この中学区の中かで、人口約600人の小学区に1小学校を設けることになっていましたが、経済事情などで困難な場合は「聯区」といって2～5小学区に1校でよいことになり、本校も第16番より第19番小学区を聯区とした学校として発足しました。

正式名 「第2大学区三重県管下第35番中学区内

自第16番至第19番小学聯区海蔵学校」

小学区	区 割 町 村 名	人口
第16番小学区	西阿倉川, 東阿倉川	606
第17番 "	東阿倉川村ノ内, 末永村, 浜一色村ノ内	623
第18番 "	浜一色村	664
第19番 "	浜一色村ノ内, 川原町	668

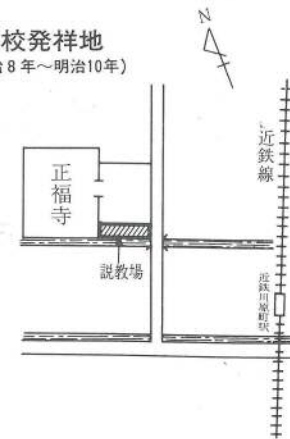
教員2名, 吉村謙治, 斉木謙蔵。生徒数 男86名, 女44名。

(文部省第3年報, 公立学校設立伺による。)

海蔵小学校発祥の地

本郷町(旧末永村) 正福寺説教場

海蔵学校発祥地
(明治8年～明治10年)



説 教 場

正福寺は江戸末期より寺小屋として子弟の教育の場であり、明治8年の本校開校にあたっては、当説教場が充てられたものと推定されます。



満二十歳を成人と定める
(九・四・二)

万国連合郵便条約加入調印
(一〇・六・二)
伊勢農民暴動通過
(九・二・二〇)

学校の設立維持

学校設立維持の経費は地方住民の負担を原則としていましたので、授業料（1～3銭）を徴収のほか、学区内各戸への賦課金と寄付金にたよっていました。



生徒の試業（試験）

一級毎に必ず試業があり合格した者は、免状が授与され進級することができました。下等または上等全科卒業の時は県係官が臨席して大試業が行なわれました。

試業の定点は時々変更がありましたが各科とも定点の半分以上をとらなければ落第でした。

海蔵学校下等生徒秋期試験 及第・落第表（明治9年）

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	計
及第						14		49	63
落第						4		7	11

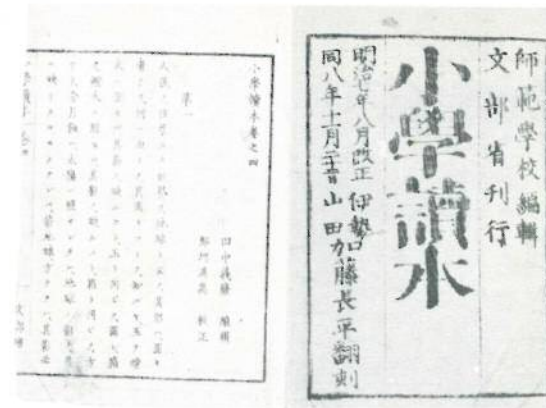
(三重県教員養成史による)

寺小屋時代に使われた教科書



商売に必要な知識・心得を書いた往来物

開校当時使われた教科書



翻訳教科書の代表的な小学読本

教科書 明治5年～12年

この時代のもは自由出版の翻訳教科書です。

パリ万国博覧会に参加
(一一・五・二)

水車町に校舎建設

教育令制定
(一一・九・二九)

三重朝明郡となる
(一一・二・)
第一大区、第二大区を廃して

改正教育令
(一三・一一・二八)

首座訓導
隣谷 義一



道光田説教場の鬼瓦



管理棟，2階に大太鼓があり授業の始終にならし生徒に告げていました。

教育令制定

学制実施により，数年にわたる小学校教育の経験にもとづき，地方の自由を認め，実際に即するように改めました。学区制も廃止し，町村を小学校設置の基礎におきました。

改正教育令

教育令は地方の自由を認める方針であったのに対し，重要な事項について文部大臣の認可を規定するなど，国家の統制，政府の干渉を基本方針としました。

三重日報第50号「雑報ばなし」より 明治14年4月9日

県下四日市河原町なる海蔵学校は，明治12年中，聯合町議会議長伊東春東氏の周旋尽力によりて，今の校舎を新築し，昨13年上旬一志郡久居在より訓導隣谷梅吉と言う人を招聘して校長の任を依頼せしに，同氏は赴任以来生徒を実に子弟とてもなく親切に教育するを以て，生徒は勿論其父兄の喜び一方ならず殊に議長伊藤春東氏，学務委員鈴木祐太郎氏等が昨冬貧民の子弟よりは授業料を収むることを廃し，諸規則を改正せし時も隣谷梅吉氏の功大に処るを以て此土地にては望みを掛けざるものはなく，生徒も其徳を恭ふて続々入学する者踵を接し，広き教場も之が為め狭隘を告げ増築せんと為るの場合に至れり，

水車時代の海蔵学校 (記憶図)
(明治12年～明治29年)



四日市高等小学校分教場が半分使用していたので運動場がせまく，校舎の間で遊んでいました。

得」を制定
(一四・一・三二)
「小学校教員免許状授与方

示方心得」制定
(一四・一・二九)
「小学校設置の区域、校数指

横田市平
三重郡末永村濱
一色村戸長申付候
事
準等外一等月給金六圓
明治十四年三月廿四日
三重縣

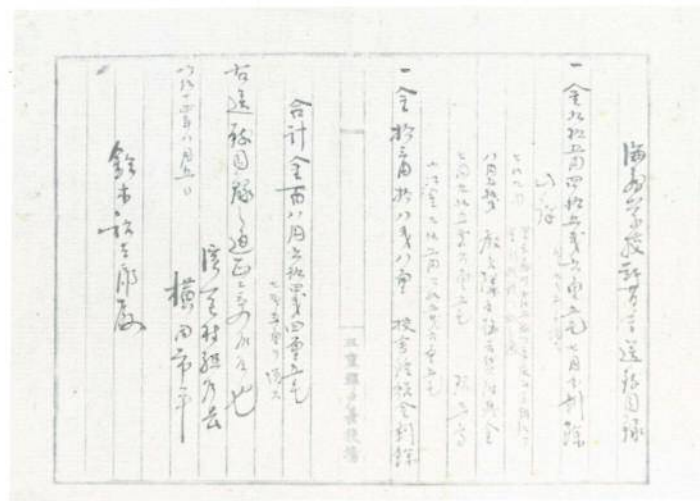
戸長

三重朝明郡役所を四日市に設置して三重朝明郡長その両郡を支配し町村に戸長役場を設けて戸長之を管理しました(海蔵小誌より)いまの村長にあたります。

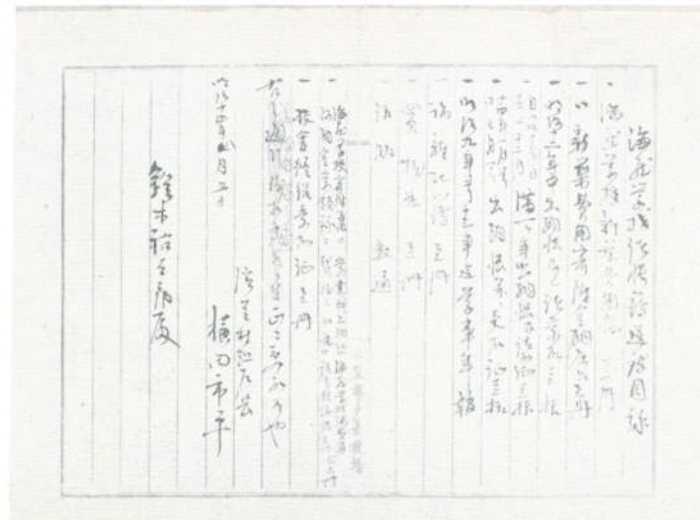
戸長
横田市平
三重郡第三
學區學務委
員申付候事
明治十四年十月七日
三重縣

学務委員

学制当時の学区取締は学区内の就学の督励、学校の設立などの事務を担当したが、明治12年から名称が変更され、町村内における学校事務を管理しました。



海蔵学校所有金送致目録 (明治14年)



海蔵学校諸帳簿送致目録 (明治14年)

小学校教則綱領制定
(一四・五・四)

軍人勅諭を發布
(一五・一・四)

官報第一号発行
(一六・七・二)

保育すべきことを通達
を禁じ、幼稚園の方法により
学齢未満の幼児の小学校入学

小学校教則綱領制定

学制当時の教則を根本から改め、各府県の教育課程を全国的に統一しました。

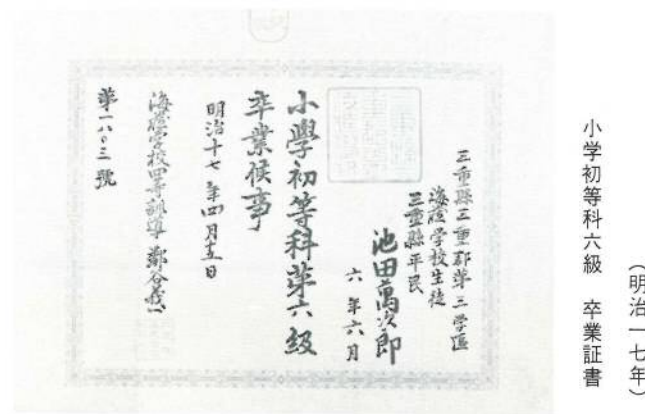
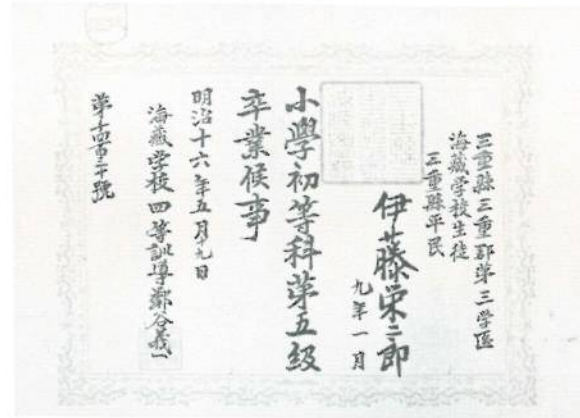
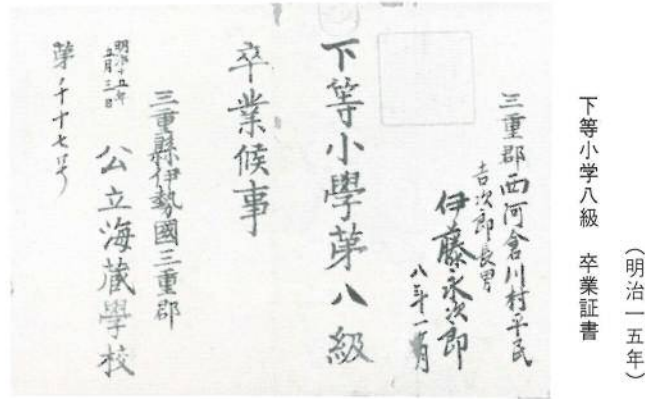
小学校を初等科3年、中等科3年、高等科2年とし、科目の編成、教授内容を規定しました。しかし、三重県では初等科、中等科の学校が多数を占めていました。

明治14年からの学制

	初等科			中等科			高等科					
年令	6	7	8	9	10	11	12	13				
級	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1

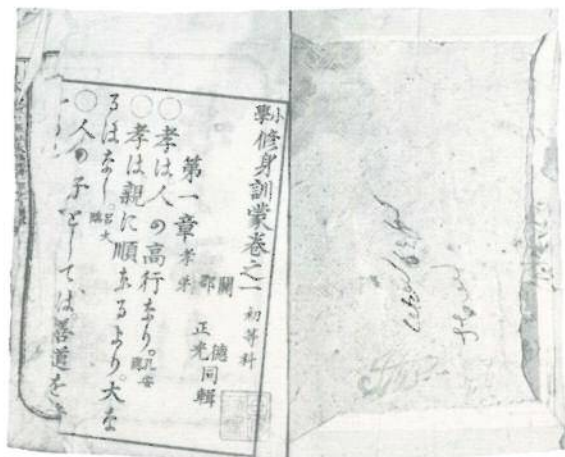
各科の教科目

	教科目
初等科	修身・読書・習字・算術・(唱歌)・体操
中等科	修身・読書・習字・算術・(唱歌)・体操・地理 歴史・図画・博物・物理・裁縫(女子)
高等科	修身・読書・習字・算術・地理・図画・博物 (唱歌)・体操・裁縫(女子)・化学・生理・幾何 経済(女子は家事経済)



教育令再改正
(一八・八・二二)

小学校令公布
(一九・四・二〇)



教科書 明治13年～18年

許可制・認可制の教科書。「孝は人の高行なり」と国民道徳を振興するため、忠孝仁義の国民性を鼓吹した修身教育が重視されました。

教育令再改正

世間の不況、就学率低下で地方教育費を節減するため、簡易な小学校教場を設けることを認め、二部授業、夜間授業も認めました。

しかし、翌19年、学校制度大改革のため教育令を廃止したので再改正はわずかの期間にすぎませんでした。

小学校令公布

小学校令、中学令と、それぞれ独立した学校令を規定しました。

小学、中学、師範をいずれも尋常、高等の二段階とし、就学の義務を明らかにしました。

また、土地の状況により小学簡易科（修業年限3年）を設けて尋常小学校に代用することを認め、明治20年4月より実施しました。

明治19年からの学科

	尋常小学校				高等小学校			
年令	6	7	8	9	10	11	12	13
学年	1	2	3	4	1	2	3	4

尋常小学校の学科

修身	読書	作文	習字	算術	体操	(図画)	(唱歌)
----	----	----	----	----	----	------	------



小学中等科

第6級卒業証書

(明治19年)

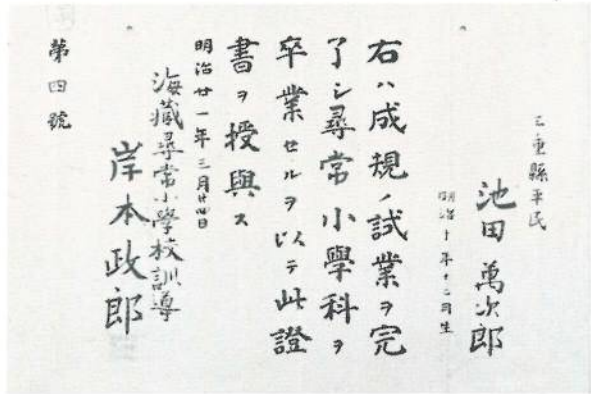
海蔵尋常小学校と校名変更

目録訓導
岸本 政郎

海蔵尋常小学校

明治20年、三重県令により本校は簡易科授業所（修学年限3年）設置を指定されたが、地区民の努力により開設後2か月にして尋常小学校となりました。

簡易科授業所経費	100円内外
小学校経費	452円余
組合高等小学校経費負担額	50円余



尋常小学校卒業証書 (明治二十一年)

明治二十二年 成績表

姓名	年次	算術	国語	理科	社会科	音楽	体育	その他	合計
山本 清太郎	第一	85	75	65	55	45	35	25	330
山本 次郎	第一	80	70	60	50	40	30	20	320
山本 三郎	第一	75	65	55	45	35	25	15	310
山本 四郎	第一	70	60	50	40	30	20	10	300
山本 五郎	第一	65	55	45	35	25	15	5	290

海蔵村誕生 (二・三・一)

役 長
服部 房夫

を設立（学区は従前通り）
四日市町と海蔵村で学校組合

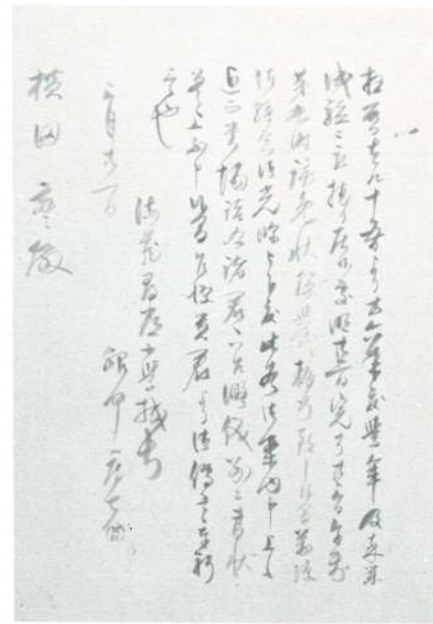
海蔵村誕生

明治22年、市町村制施行のとき、東・西阿倉川、野田、末永で海蔵村を組織しました。浜一色村全部と末永村の一部は四日市に編入されました。

尋常小学科3年 履修証書 (明治22年)



高等小学科1年 履修証書 (明治22年)



免状授与式案内状

小学校令改定
(一三三・一〇・三七)

教育勅語発布
(一三三・一〇・三〇)

四日市―草津間鉄道開通
(一三三・一一・)

小学校令改定

各市町村は学令児童を就学させるに足る尋常小学校を設置することが規定されました。

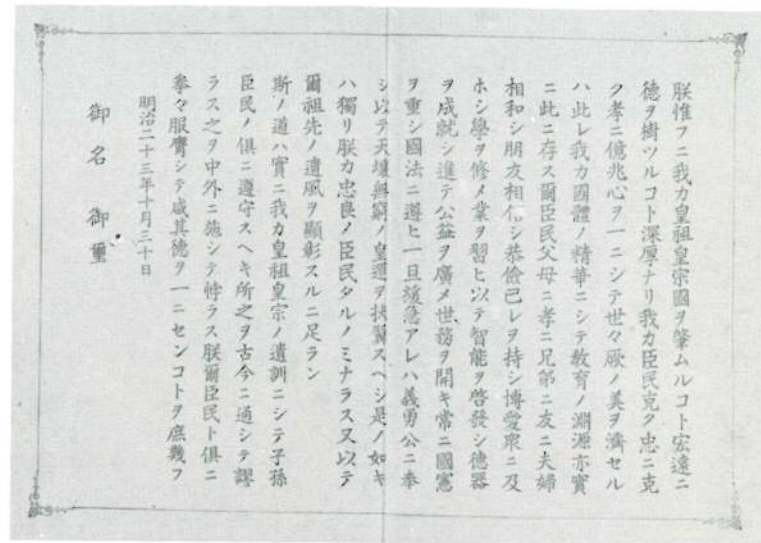
また、第1条に小学校の目的が明示されています。

「小学校ハ児童身体ノ発達ニ留意シテ道德教育及国民教育ノ基礎並其生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス」

これは、昭和16年の国民学校令まで約50年間改正されませんでした。

教育勅語発布

国民道徳、国民教育の根本理念が明示されました。



明治20年～39年 海蔵地区高等小学校生徒の通学校

校名	三重郡第1高等小学校	三重朝明郡第1高等小学校	三重郡四日市外3か村学校組合 四日市高等小学校	三重郡四日市外4か村学校組合 四日市高等小学校	三重郡神前高等小学校 (新設)
開校	明治20・1・19	明治22・10・28	明治25・10・1	明治27・1・25	明治31・4～39.
学区	四日市町外5か村連合 浜一色村・小古曾村 浜田村・塩浜村 日永村	四日市町外19か村連合 海蔵村・塩浜村・楠村 河原田村・内部村・日永村 四郷村・川島村・常磐村 神前村・三重村・富洲原村 羽津村・富田村・大矢知村 川越村・朝日村・下野村 八郷村	四日市町 海蔵村・羽津村・常磐村	四日市町 海蔵村・羽津村・常磐村 三重村	海蔵村・羽津村・常磐村 三重村・神前村

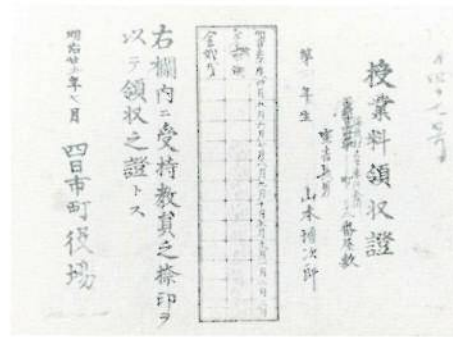
濃尾地方大地震
(二四・一〇・二八)

「実業補習学校規程」を制定
(二六・一一・二二)

(二七・七・)
(関西鉄道)
四日市―桑名間鉄道開通

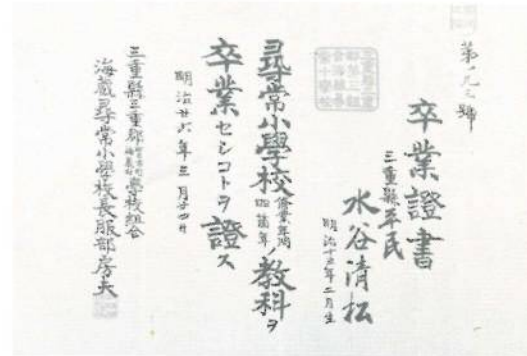


明治23年 尋常科4年卒業記念

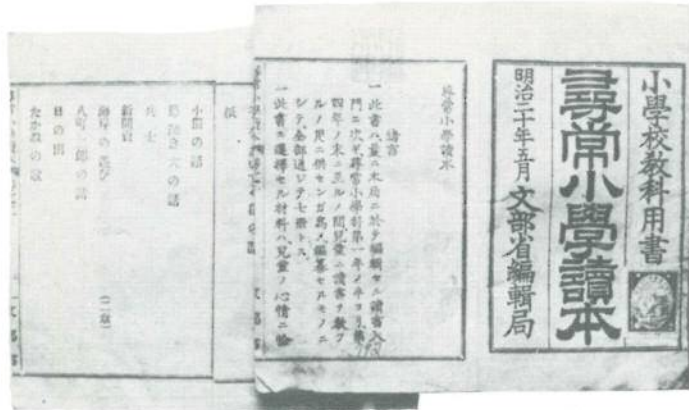


明治25年 授業料領収証

授業料は「学制」当時より明治33年まで徴収せられ、学校の運営経費の一部にあてられました。

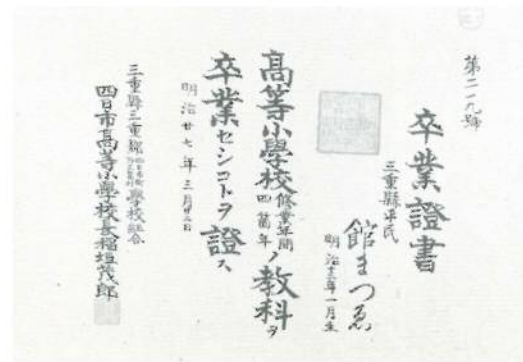


明治26年 学校組合海蔵尋常小学校4年の卒業証書



教科書 明治19年～36年

検定教科書、国定統制強化時代のものです。



明治27年 学校組合四日市高等小学校4年の卒業証書

(二八・一〇・)
四日市—名古屋間鉄道開通

(二九・三・)
重郡と改める
三重郡、朝明郡を廃止して三

校長
石川又一郎

(三〇・八・一)
海蔵村だけとなる
四日市町が市制実施

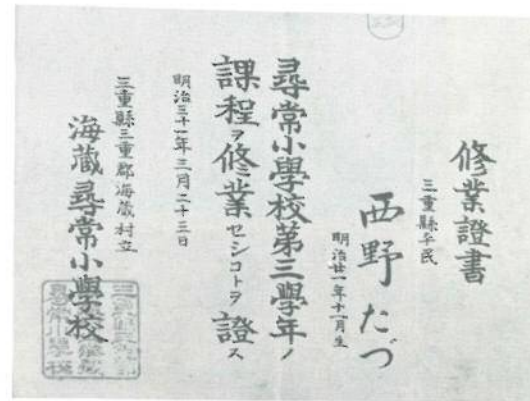
(三一・五・二)
現在地に校舎新築、移転する



水車町にあったものを
現在地に移転し、昭和の
校舎建築のとき払い下げ
られ、いまは三ッ谷町熊
本捨松氏宅にあります。

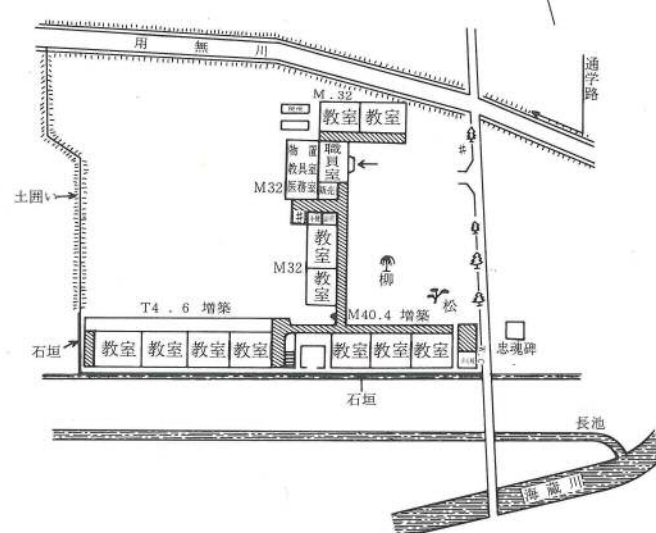


現在地に移転当時の校舎



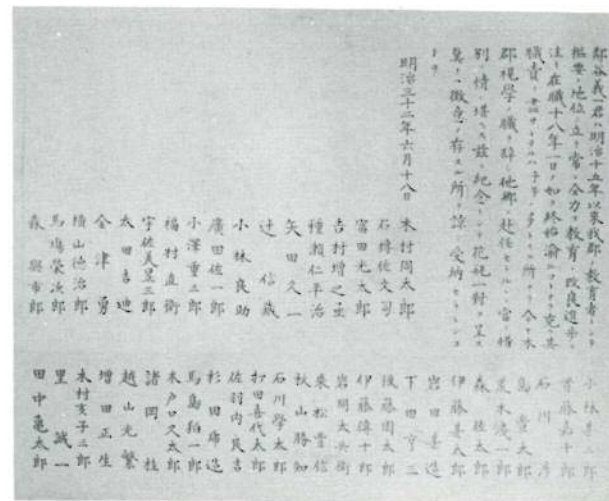
明治31年 海蔵村立海蔵尋常小学校の修業証書

明治32年～大正4年頃の海蔵小学校（東阿倉川校舎）



用無川

小杉町の排水路で川底が高く大雨以外は水がなく現
出張所の南を流れていました。堤防は12尺程の高さで
登下校にはこの坂を登り下りしていましたが大正13年
の耕地整理で取りこわされ学校の敷地になりました。



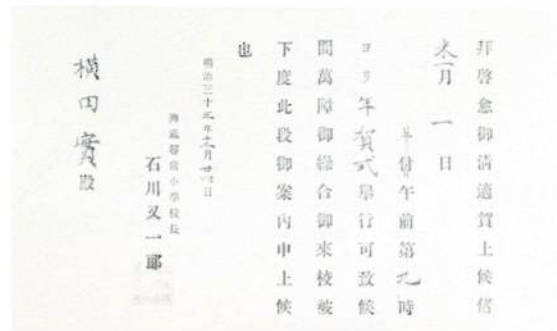
明治32年 隣谷義一氏の表彰

小学校令改正
(三三・八・二〇)

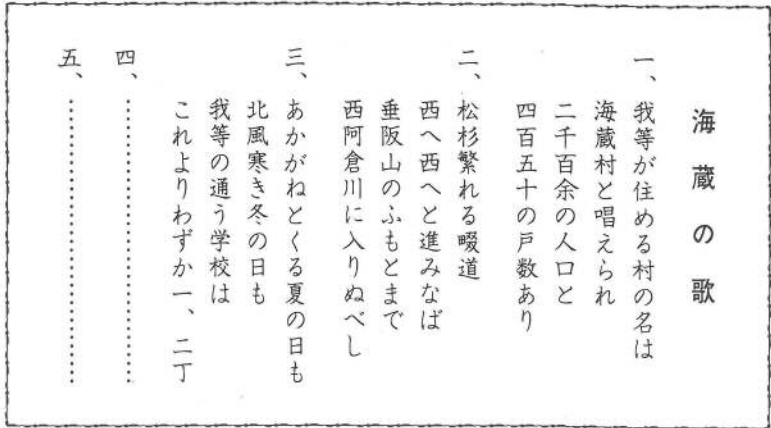
校長
山本嘉太郎

国勢調査に関する法律公布
(三五・一一・二)

「専門学校令」を公布
(三六・三・二七)



明治三十三年 年賀式案内状



海蔵の歌

- 一、我等が住める村の名は
海蔵村と唱えられ
二千百余の人口と
四百五十の戸数あり
- 二、松杉繁れる暖道
西へ西へと進みなば
垂阪山のふもとまで
西阿倉川に入りぬべし
- 三、あかがねとくる夏の日も
北風寒き冬の日も
我等の通う学校は
これよりわずか一、二丁
- 四、.....
- 五、.....

古老の話によると明治30年ごろより明治終りにかけて地区民の間で歌われたもので、海蔵各地の様子がよみこまれています。

小学校令改正

尋常小学校の3か年を廃止し4か年とされました。また、「市町村立尋常小学校ニ於テハ授業料ヲ徴収スルコトヲ得ス」と規定されました。

地理教育 鉄道唱歌

明治33年、地理教育として、東京から神戸まで沿線のもようを歌った唱歌集。「汽笛一せい新橋を……」で知られており、全国の人びとに親しまれて、ながく歌われています。



明治35年度 甲乙丙の通告表

国定教科書使用開始

日本海海戦
(三八・五・二七)

校長
石山秀太郎

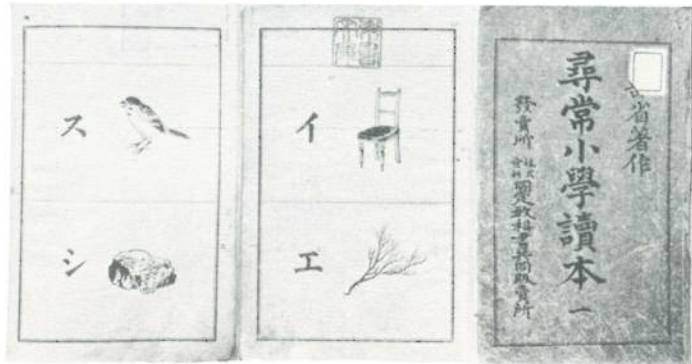
小学校令改正
(四〇・三・二一)

高等科併置
教室一棟増築
更
海蔵尋常高等小学校と校名変

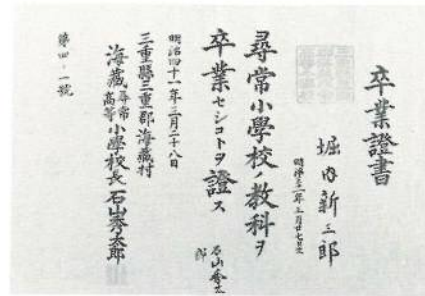
校長
土井辰二郎

海蔵尋常高等小学校

明治40年4月，高等科を併置し，同時に教室一棟を増築し，「海蔵尋常高等小学校」と校名を変更しました。



教科書 明治37年～42年
国定教科書第1期で文部省に著作権があり，比較的近代的なものです。



明治41年 尋常高等小学校になってはじめての卒業証書

小学校令改正

国民の教育への関心が高まり，就学率が増加し，義務教育が6か年に延長されました。

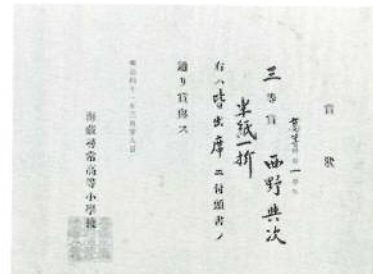
三重県では就学率が90パーセントになったのは明治35年で，40年には97パーセントにもなりました。



品行方正
学術優等
皆出席 } の賞状

明治40年からの学制

	尋常小学校						高等小学校	
年令	6	7	8	9	10	11	12	13
学年	1	2	3	4	5	6	1	2



皆出席の賞状

種痘法公布
(四二・四・二四)

近江・美濃大地震
(四二・八・二四)

海蔵村 明治42年度 歳入出予算 (小学校関係抜粋)



明治42年の物価		
品名	単位	金額
鉛筆	1本	2銭
半紙	1折	4銭
筆	1本	5銭
マッチ	1コ	3銭
ローソク	1丁	1銭
ランプホヤ	1本	5銭
石油	1升	20銭
墨	1丁	20銭
炭	1貫目	10銭

歳入

小学校授業料 160円

尋常科五, 六年生徒授業料月額8銭平均80人此12ヶ月分76円80銭

高等科一, 二年生徒授業料月額20銭平均35人 12ヶ月分84円

歳出

教員給料 1,404円

尋常科, 高等科7学級二要スル正教員7人平均1人月俸16円

裁縫科専科正教員1人月俸5円コノ1ヶ年分

生徒賞与費 7円

卒業優等生20人金4円(1人平均20銭)

皆出席及ヒ之ニ準スヘキ品行善良学科優等者30人金3円

(1人平均10銭)

儀式費 14円

三大節茶菓費10円50銭, 学校創立記念日茶菓費3円50銭

運動会費 13円

春秋運動会2回来賓職員賄費5円, 生徒賞与費6円

雑費2円

雑費 76円

京都地方修学旅行生徒30人此金15円補助……………略

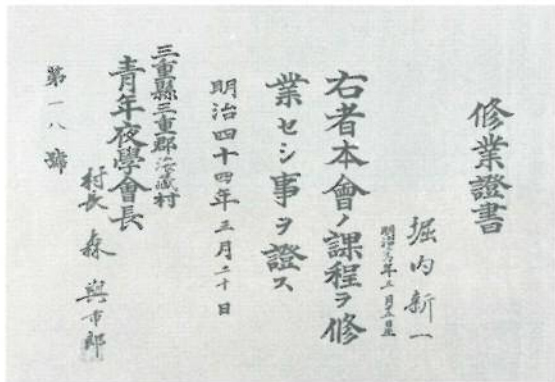
校舎修繕費 57円30銭

北校舎北側硝子障子15枚代金30円(1枚2円)……………略

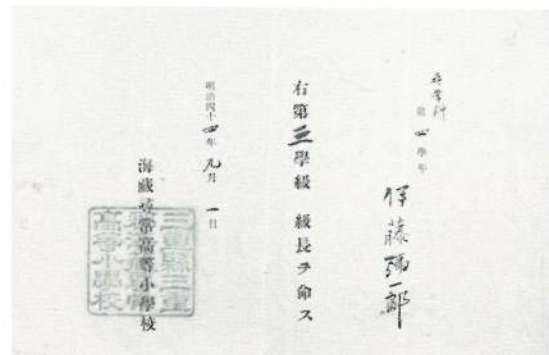
伊藤政治郎

(併設) (四四・五・)
海蔵村立実業補習学校創立

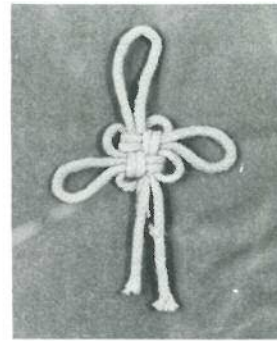
明治天皇崩御
(四五・七・三〇)



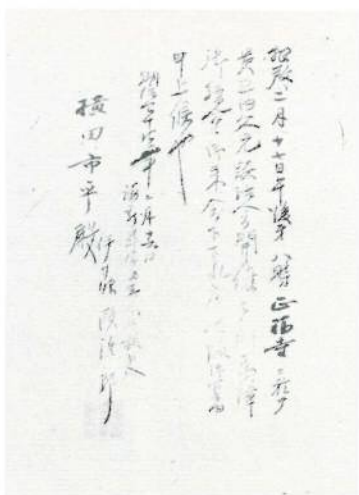
明治44年 青年夜学会修業証書



級長の任命書



級長のふさ



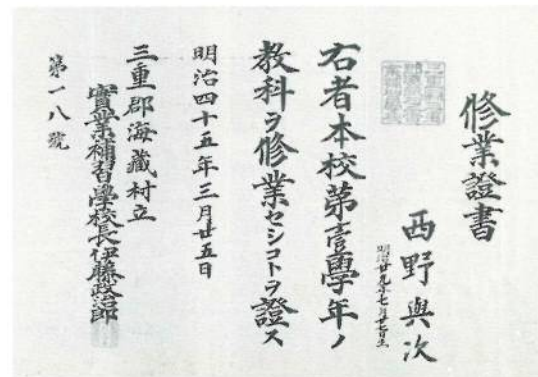
明治44年 父兄談話会の案内状



明治44年の校訓



明治44年の児童手牒に記載されている児童心得



実業補習学校修業証書

校長
水谷善太郎

第一次世界大戦起る
(三・七・二八)

南校舎一棟増築
(四・六・)

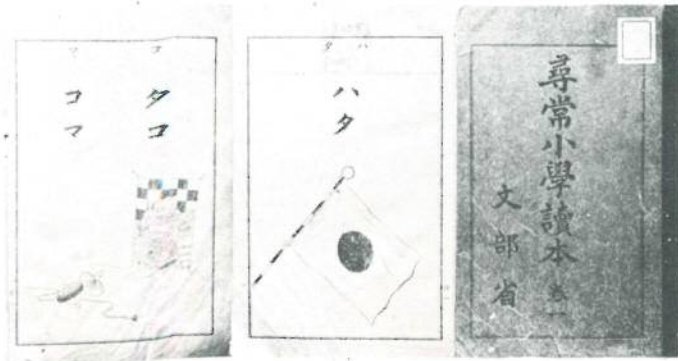
旧校舎改築 (五・六・)

臨時教育会議設置
(六・九・二二)

米騒動起る
(七・七・二三)

公布 (七・七・二七)
市町村義務教育費国庫負担法

校長
太田 源治



大正6・7年 児童手帳

大正6年は甲乙丙
大正7年は10点法

教科書 明治43年～大正6年
国定教科書第2期本で、家族、国家を強調するものです。

臨時教育会議

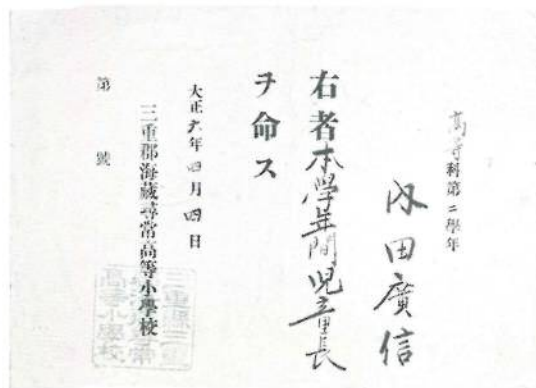
総理大臣の諮問機関として「臨時教育会議」を設置し、小学教育の改善に関し諮問され、兵式体操の振興などが建議されました。

大正時代の授業風景
(そろばん)



市町村義務教育費国庫負担法

大戦後の不景気と市町村の教育費支出の困難から市町村と国との教育費の分担が制度として明確にされました。



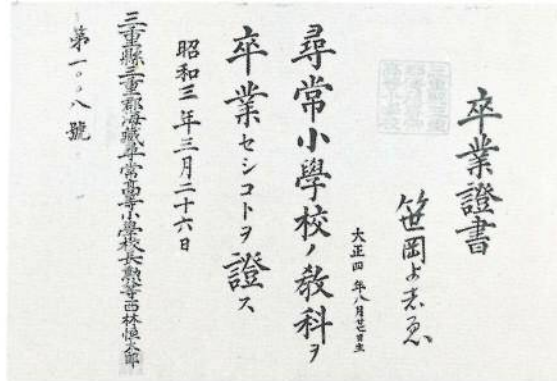
大正6年 児童 長

明治節（一月三日）を制定
（二・三・三）

通
伊勢電鉄、桑名―四日市間開
（三・一一・一）

校 長
野口繁太郎

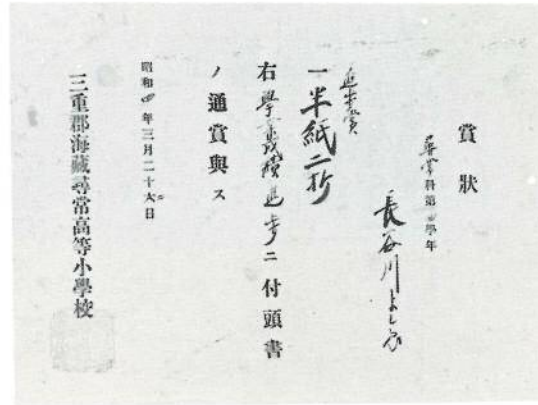
併設
（五・四・一）
四日市市立海蔵実業専修学校
と校名変更
四日市市海蔵尋常高等小学校
（五・一・一）
海蔵村が四日市に合併



三重郡時代の卒業証書



三重郡時代の校章



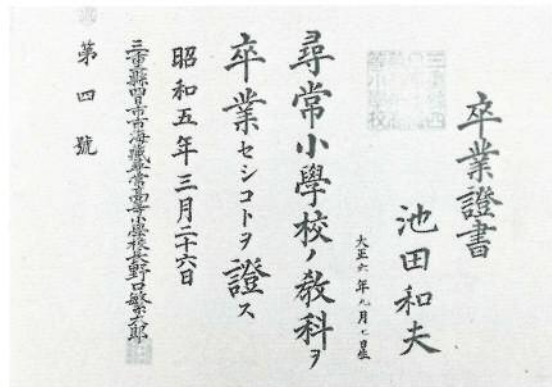
四日市市海蔵尋常高等小学校

昭和5年1月1日、海蔵と塩浜地区が四日市市に合併。校名を四日市市海蔵尋常高等小学校と改めました。

日本少年野球出場 (昭和5年)

当時少年野球が盛んで本校は県下で優勝し平安神宮で初日に昨年の優勝校京都市育生小学校と対戦しました。おしくも3対1で敗れましたが、本校5年の竹内正投手は速球で県下に打てる者は誰もいませんでした。

(故 野口校長 談)



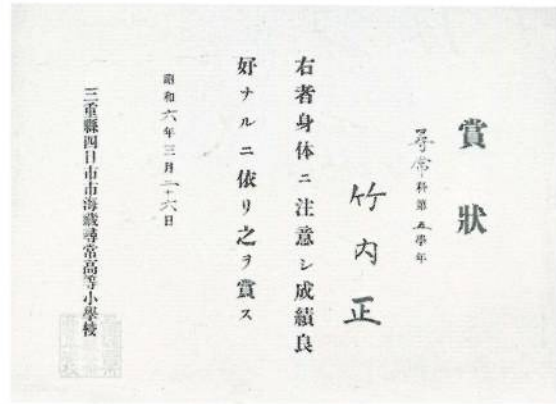
四日市市に合併後、初の卒業証書



満州事変 (六・九・一八)

講堂落成 (七・三・二二)
二教室増築

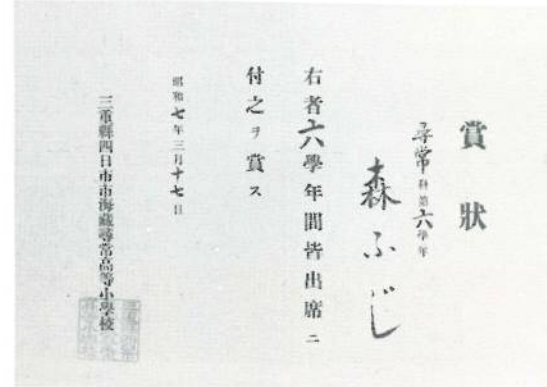
橋本源之助



成績良好



四日市海蔵尋常高等小学校時代の校旗
(港の都、四日市のシンボル錨の中に「海」の字を配しています)

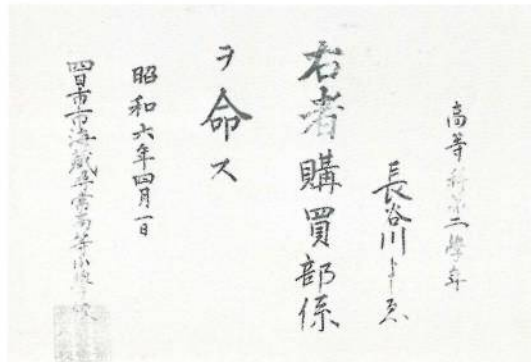


6か年皆出席



講堂落成式

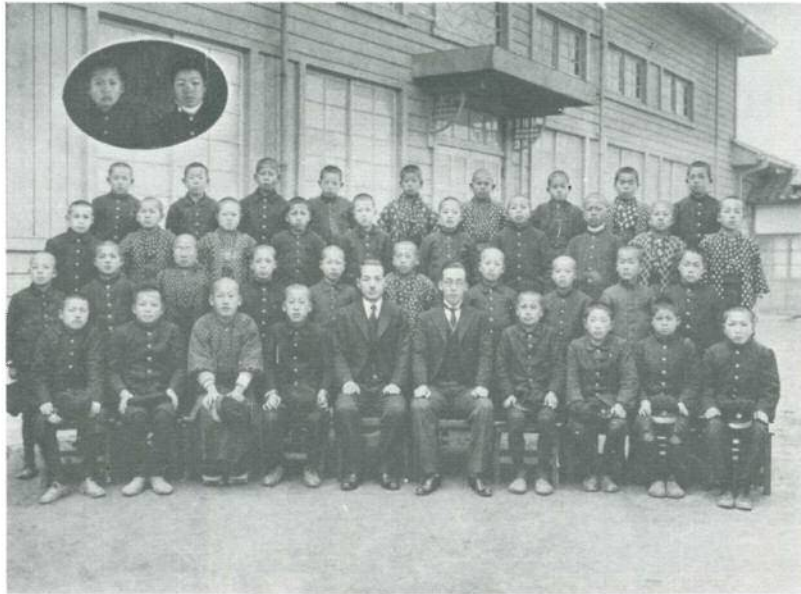
市に合併の条件で待望の講堂が昭和7年3月22日完成し、落成式を
挙りました。竹内政吉氏、水谷安治郎氏、笹岡伊三郎氏等の協力に
より、ピアノ、テーブル、腰掛などが完備しました。



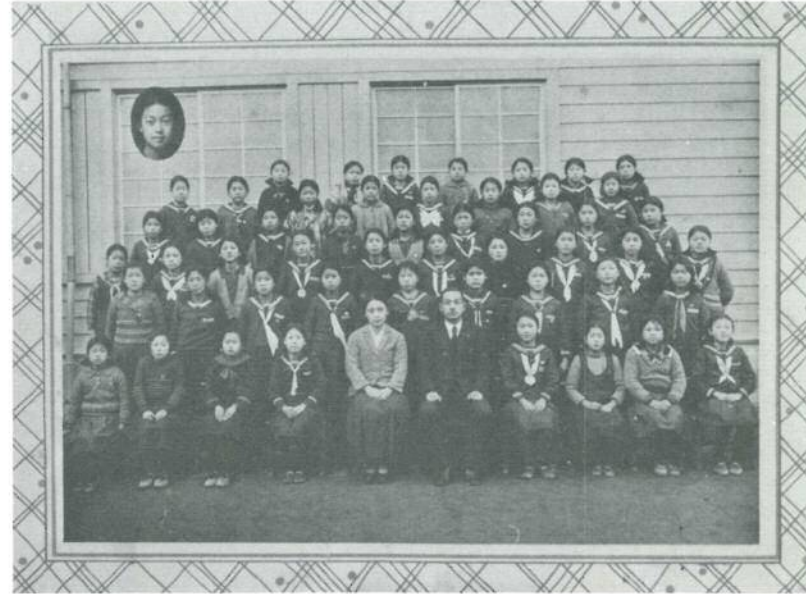
購買部係

四日市市立海蔵青年学校併設
(一〇・七・二)

国産振興四日市大博覧会開催
(一一・三・一)



昭和9年3月 尋常科卒業生、3分の1ほどは着物姿です



昭和11年3月 尋常科卒業生 このときになるとほとんどが洋服姿です

賞状
尋常科第五學年
加藤フミ子
第二等
右者二級競書會
ニ於テ成績優秀ナリ
仍テ之ヲ賞ス
昭和十年二月廿七日
四日市市海蔵尋常高等小學校

二級競書會

昭和十年度
私の書き方
四日市市海蔵尋常高等小學校
尋常科第六學年 野呂登代

私の書き方

賞状
銅賞 平野タダ子
第一回全國書道展覽會
ニ於テ審査結果成績優秀
ト認め依ツテ之ヲ賞ス
昭和十一年五月三日
總裁 三島縣書記官 富田愛太郎
名譽會頭 四日市長 長谷川善吉 吉田勝太郎
會 頭 四日市市教育會長 徳田九吉 門

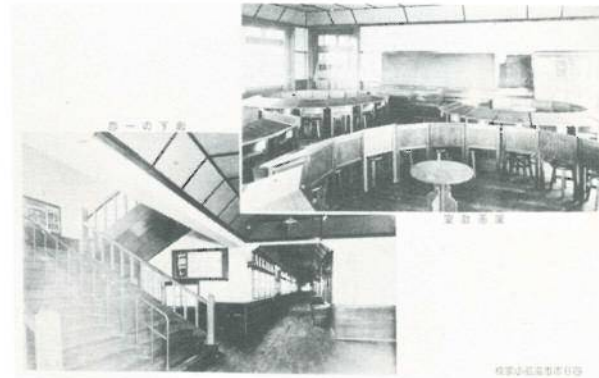
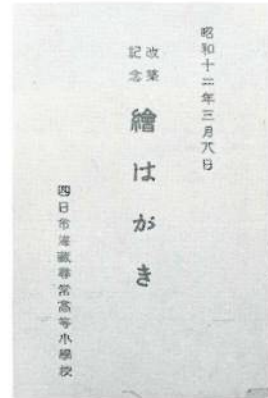
全國書道展覽會

昭和10年より
16年ころにかけて、習字、図画
教育が最も盛んな時期で、対外的にも優秀な成績をあげていました。

校舎改築

永い年月の間に校舎の大半はいたみがひどく、地元や促進委員諸氏の努力で大改築が行なわれました。

- | | | | |
|---------|-------|----|-------|
| 改築促進委員長 | 笹岡伊三郎 | 委員 | 石崎篤一郎 |
| 委員 | 横田 市平 | " | 石崎弥兵衛 |
| " | 森 与一郎 | " | 伊藤栄次郎 |
| " | 辻 市次郎 | " | 前川 常一 |
| " | 野崎善三郎 | " | 大森吉三郎 |
| " | 竹内 政吉 | " | 水谷安次郎 |
| " | 西脇庄太郎 | | |



- 経過** 昭和 9年12月 7日 市議会通過 敷地 2反歩が地元より寄付
- " 10年 9月19日 起工
 - " 11年12月15日 竣工
 - " 12年 3月 8日 落成式挙行

木造 2階建曲折 1棟，車寄平屋建，東西便所 2棟，南便所 1棟，東西南便所渡り廊下 3棟，講堂渡り廊下，家事室渡り廊下，手工室渡り廊下，物置渡り廊下 4棟

予算 70,000円，入札 53,800円（亀山大橋組施工） 実費 68,412円

特徴 棟の組み方特に変わり，階上よりごみを捨てるようにし，土間，廊下を広くし，当時県下で稀に見る校舎でした。

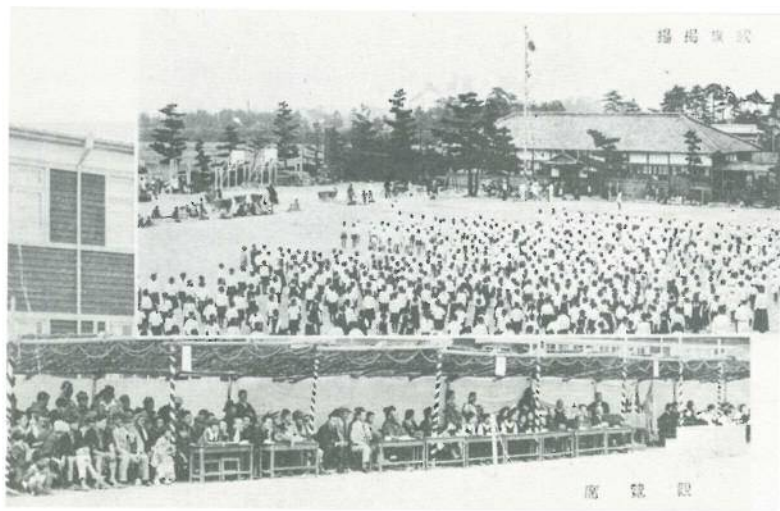
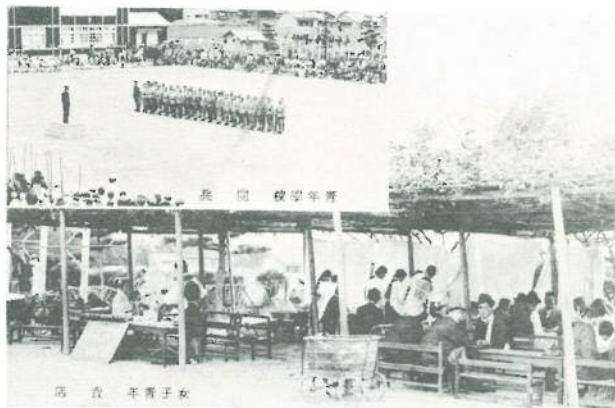
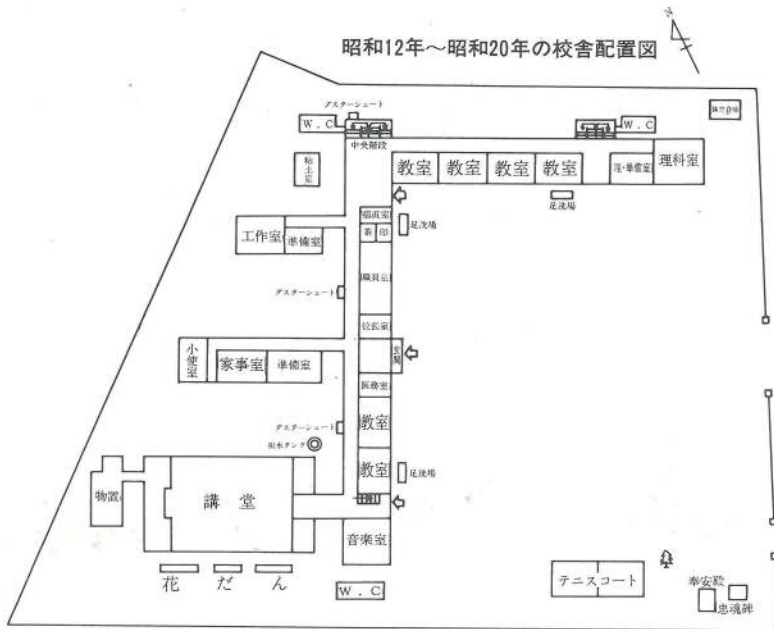
(沿革史より)



令公布(二二・九・一〇)
戦時経済体制へ移行(関係法)

日・独・伊防共協定調印
(二二・一一・六)

改築記念大運動会

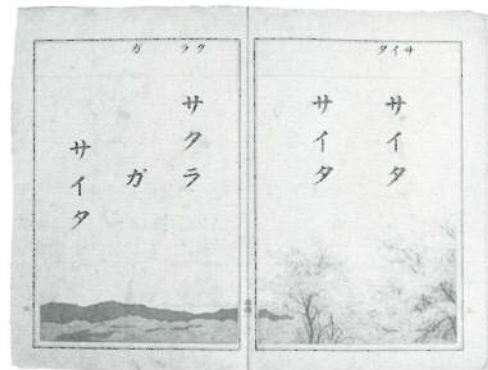
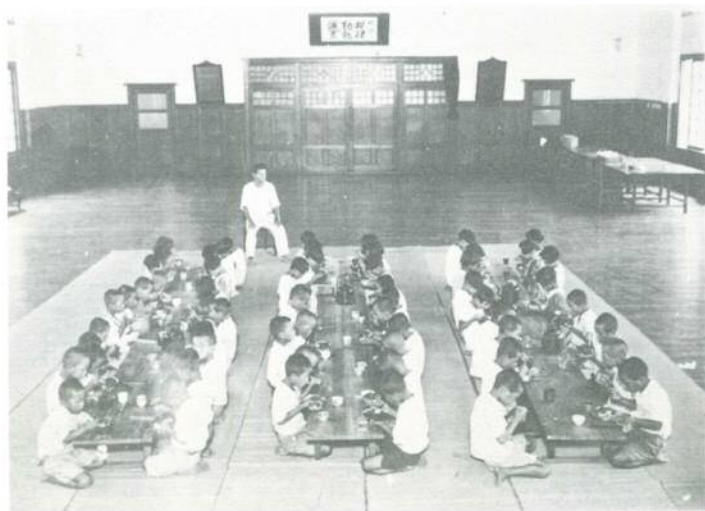


定 (一三・一二・九)
「青年学校職業科要目」を制

国家総動員法成立 (一三・四・二)

衣料切符制始まる (一三・三・二)

昭和 13 年 8 月 夏期保養所



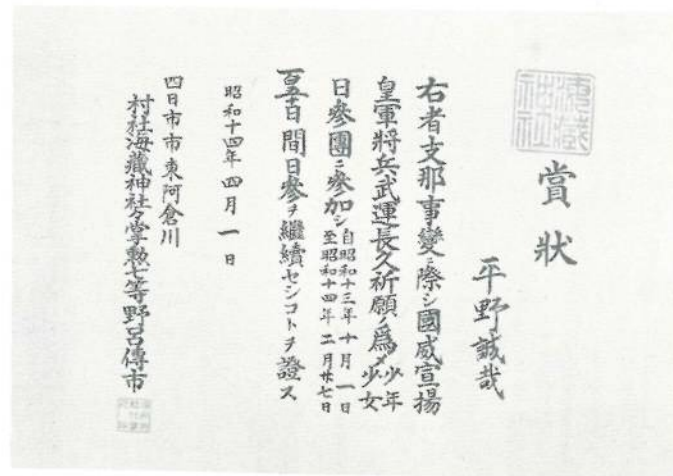
教科書 昭和 8 年～15年
 国定第 4 期本で、サイタサイタで始まるサクラ読本、内容面では軍国調を育成する方向にむかいました。

青年学校義務制となる
(一四・四・二六)

第二次世界大戦始まる
(一四・九・三)



日参团 昭和13年頃より各町で出征兵士の武運長久を祈るため、小学生が夕方や早朝、地元の神社に参拝し、これが終戦まで毎日続けられました。



国民服令公布(国民服を制定)
(一五・一一・一一)

紀元二六〇〇年式典挙行
(一五・一一・一〇)

大平洋戦争始まる
(一六・一二・一八)

変更 (一六・四・一一)
四日市市海蔵国民学校と校名
(一六・三・一一)
国民学校令公布

四日市市海蔵国民学校

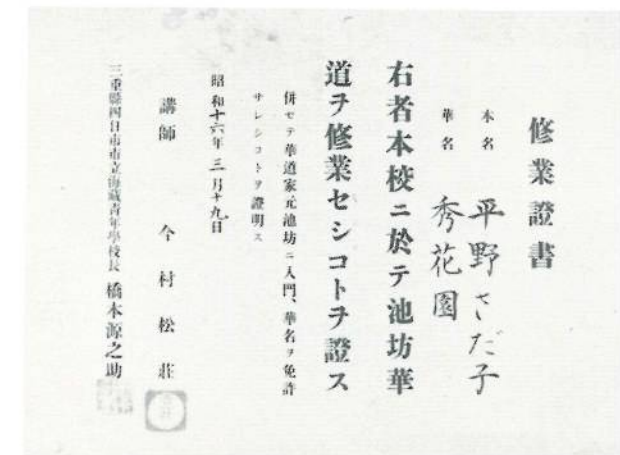
昭和16年3月1日、小学校令の改正で国民学校となり、本校も「四日市市海蔵国民学校」と改称されました。

学校の目的も明治23年10月7日に決められたものを、ここで約50年ぶりに「国民学校ハ皇国ノ道ニ則リテ初等普通教育ヲ施シ国民ノ基礎的錬成ヲ為スヲ以テ目的トス」と改正されました。

修業年限は初等科6年、高等科2年の計8年間を義務制としましたが戦争の激化で、この義務制は終戦まで持ち越されました。

初等科の教科

国民科	修身・国語・国史・地理
理数科	算数・理科
体錬科	体操・武道
芸能科	音楽・習字・図画・工作・裁縫



池坊華道 青年学校



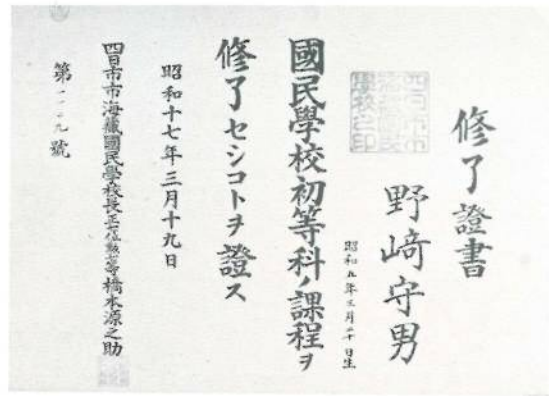
教科書
昭和16年～20年
国定5期教科書「アカイ アカイ アサヒ アサヒ」軍事教科書のようです。

学徒出動命令
(一七・一・九)

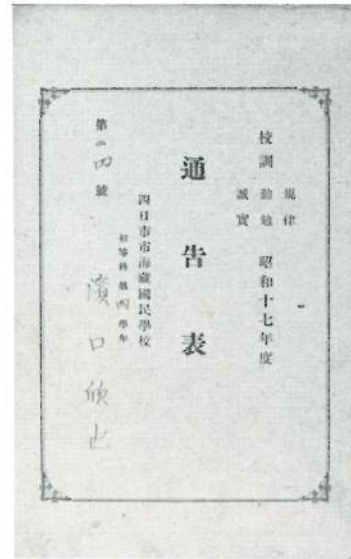
校長 萩野 秀郎

る (一八・四・一)
四日市青年学校海蔵分校とな

学徒の戦時動員決定 (一八・六・二五)



国民学校初等科の修了証書



昭和17年の通告表

国民科，理数科……となり，成績は優，良，可で表わしました。



昭和 17 年

海蔵小学校吹奏楽団は県代表に選ばれ，名古屋で行なわれた陸軍の観兵式に参加し，市中行進をしました。

姓名	学年	科目	成績	備考
野崎守男	四年	国語	優	
野崎守男	四年	算数	良	
野崎守男	四年	理科	可	
野崎守男	四年	社会	優	
野崎守男	四年	体育	良	
野崎守男	四年	音楽	可	
野崎守男	四年	美術	優	
野崎守男	四年	英語	良	
野崎守男	四年	衛生	可	
野崎守男	四年	労働	優	
野崎守男	四年	総合	良	
野崎守男	四年	特別	可	
野崎守男	四年	合計	平均	

を二歳までとする
国民学校戦時特例で就学義務
(一九・二・一六)

東海地方に大地震
(二〇・一・二三)

戦災で校舎全焼
(二〇・六・一八)

終戦
(二〇・八・一五)



昭和19年 1年生入学

校舎全焼

昭和19年頃から米軍機の本土空襲が始まり、学童疎開が行なわれました。

すでに敗色濃厚となった昭和20年6月18日未明、米軍機の焼夷爆撃を受け、新設備を誇った校舎校具を全焼するという悲運に見舞われました。

教職員の家を失ったもの15、児童の家を失ったもの507、死亡5、負傷8、全児の4割8分にのぼる罹災児を出し、学区内の罹災戸数も613にのぼり、総戸数の4割6分が戦災を受けました。

校地内で焼失をまぬがれたのは体育小屋と奉安殿だけで、校庭の大部分はいも畑、校舎の跡は鉄くずの山、全く荒廃そのものでした。

戦災直後の学校



この焼け残った体育小屋を学校の中核部として、職員は朝ここに集まり打ち合わせ後、分教場として設けられた寺院、工場、神社の社務所などへ出向き分散授業を行なってきましたが、昭和20年8月15日、終戦を迎えました。



戦時中、物資のない時代に
使われた陶器のバッジ

方針」を発表
文部省、「新日本建設の教育
(二〇・九・一五)

制度に対する管理政策を指令
連合国最高指令部は日本教育
(二〇・一〇・二二)

を停止(二〇・一一・三二)
修身、日本歴史、地理の授業

地理の授業再開
(二一・六・二九)

仮校舎落成
(二一・一〇・二二)

国史の授業再開
(二一・一〇・二二)

日本国憲法公布
(二一・一一・三二)

校長 市川 善雄

戦災から仮校舎落成までの経過

20・6・18~20・7・20

死亡、負傷児童の見舞。罹災状況の調査。校舎焼跡の整理。
疎開児童の就学督促。

20・7・21~21・3・26

終戦まで……各地域制で分散授業
終戦後……学年制により8分教場で分散授業

21・4・4~21・9・31

9か所で分散授業

海蔵神社	海蔵農協	西阿倉川会所
神明神社	野田会所	工業組合二階
信楽寺	唯福寺	山三製陶所

区民の協力と市当局の絶大な協力を得、旧海軍燃料廠建物の
払い下げを受け、経費22万円で大宗組の手により、総坪数500坪
に及ぶ仮校舎が建設され、昭和21年10月1日落成の式典を挙げ
ました。

仮校舎一棟(東西10間、南北50間)

教室(講堂兼用4)	18
職員室	1
宿直室・用務員室	1
便所	2棟

しかし、子どもや教師の苦労は物資の不足と重なって、筆舌
では表わせないものがありました。

子どもの苦労と苦しい勉強から起こる品性の低下を見るに見
かね、学区内に学校復興の気運がみなぎり「四日市市海蔵国民
学校復興委員会」が設立されました。

委員長	山本増治郎
副委員長	笹岡伊三郎
〃	西脇庄太郎
企画会計財政部長	館 弥太郎
建築労務部長	水谷重次郎
輸送部長	伊藤重次郎
資材部長	森脇佐太郎
委員	34名



うしろの建物が仮校舎

- る (二二・一・一五)
- ララ物資による学校給食始
- 青年学校海蔵分校廃校
本法、学校教育法公布
国民学校令を廃止し、教育基
- (二二・三・三二)
- 四日市市立海蔵小学校と改称
発足、九年の義務制となる
新学制による小学校、中学校
- (二二・四・一)
- 文部省、PTA結成を促す
(二三・二・二)
- 教育委員会法公布
(二三・七・一五)
- 山手小学校と改称
(二三・六・二)
- 新制高等学校発足
(二三・四・二)
- 本校舎新築(二三・三・八)
- 義務教育漢字八八一字を告示
(二三・二・一六)
- 教科書検定制実施を発表
(二二・九・一一)
- 北校舎一〇教室建築
(二二・七・七)
- 私立海蔵幼稚園付設
(二二・六・一八)
- 文部省、学習指導要領を発表
(二二・五・一五)
- 校長
上村楠之丞

四日市市立海蔵小学校

戦後、新学制の実施により校名を変更しました。



すみぬり教科書



教科書 昭和21年～22年
仮綴り教科書で文部省著作の民主主義教育にもとづいて「みんないいこ」になりました。



北校舎と本校舎

戦後の6・3・3・4の学制

小 学 校	中 学 校	高等学校	大学	
			短大	
1 2 3 4 5 6	1 2 3	1 2 3	1 2 3 4	

北 校 舎

木造平屋建一棟（8間×32間、256坪）を314,270円で伊藤建設工業所（清水町）の手によって建築しました。

本 校 舎

戦時中疎開していた児童が帰って増加し、せまくなりましたので、市費58万円で伊藤建設工業所の手により、本校舎（8教室、特別教室6）を新築しました。



校舎建設委員

PTA会長
山本貞次郎

海蔵幼稚園を市へ移管付設
(二四・四・一)
変更
(二四・七・二五)
四日市市立海蔵小学校と校名

PTA会長
川地喜一郎

与に関する法律公布
(二六・三・二九)
教科書(国語・算数)無償給

校長
水原 壽
PTA会長
石崎 一男

「児童憲章」を制定
(二六・五・五)

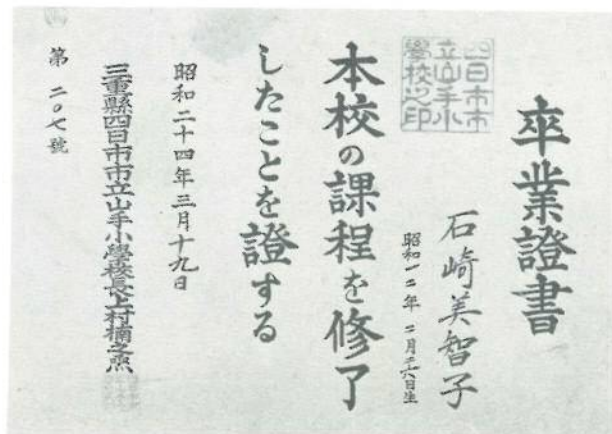
校章、校旗制定
(二六・九・)

四日市市立山手小学校

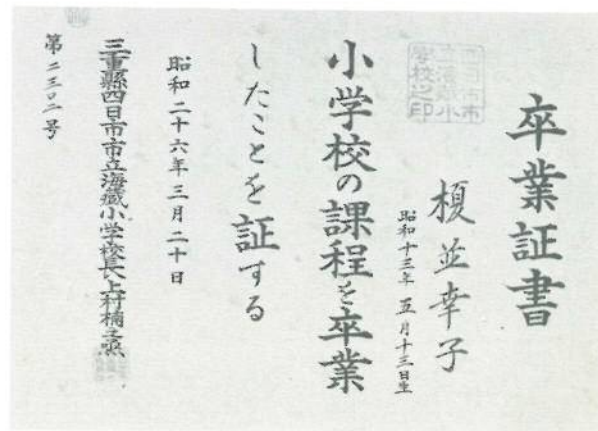
昭和23年6月1日、学校再配置に伴う非常措置によって羽津小学校が山手中学校の使用校舎となり、羽津小学校を海蔵小学校に統合して四日市市立山手小学校が発足しました。

その後1か年、市当局と地区民の熱意により山手中学校の校舎が落成するとともに羽津小学校は元へ帰り、昭和24年7月25日、また、四日市市立海蔵小学校として再発足することになりました。

昭和21年～昭和26年の校舎変遷



わずか1年間、山手小学校の卒業証書



バラック校舎払い下げ
(二七・三・七)

四教室増築
(二七・八・一三)

市町村教育委員会発足
(二七・一一・一)

学校図書館法公布
(二八・八・八)

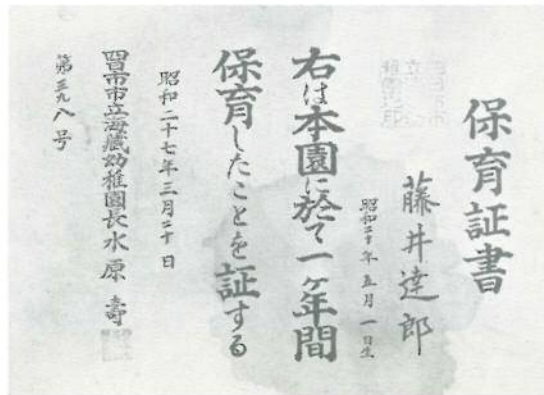
学校給食法公布
(二九・六・三)



教科書 昭和24年～29年
著者，民間教科書編集，文部省検定，使用
という流れをたどりました。検定1期。

兵舎の移築であったため不便が多かったバラック校舎の北半分(200坪)を昭和27年3月7日、251,000円で売却しました。

その跡に4月より着工していた木造2階建4教室と渡り廊下延132坪が、経費268万円で伊藤工業株式会社の手によって完成しました。



-2, -1, 0, +1, +2,
方式の伸びゆくすがた



校長
佐藤 円蔵

「海蔵小誌」発行
八十周年記念式典挙行
(三〇・七・三二)

二教室増築 (三二・三・六)

校長 PTA会長
寺本 次郎 山本 貞三

市立海蔵幼稚園独立
(三二・四・二)

PTA会長
熊本 捨松

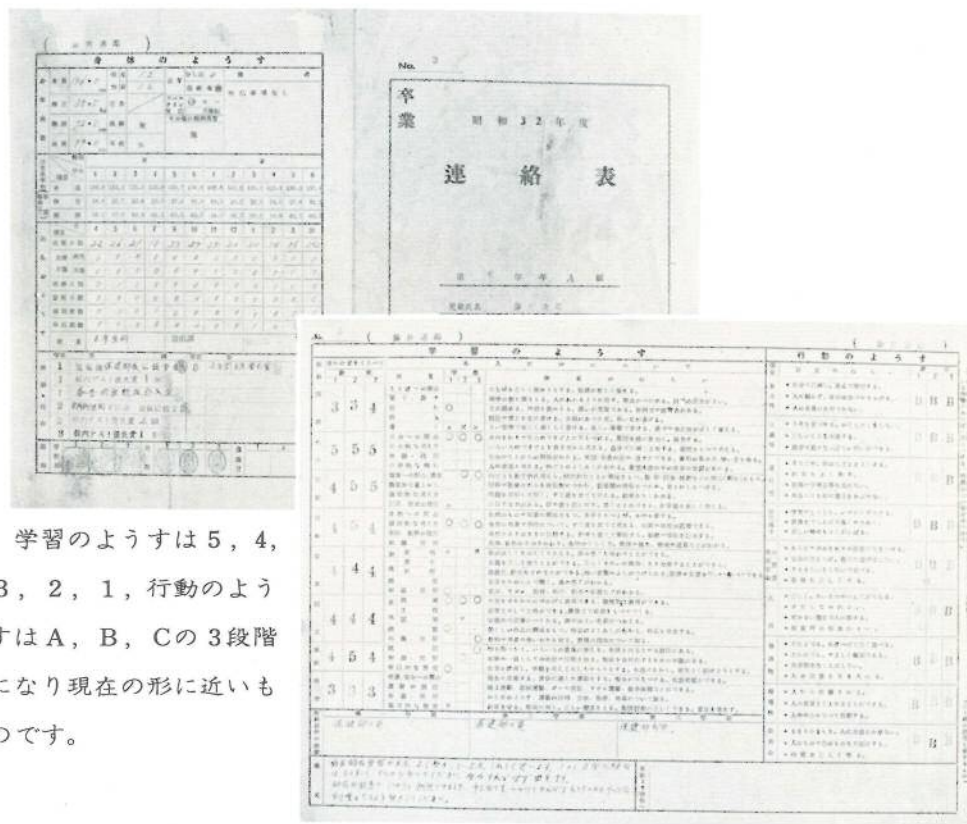
校地拡張 (三二・七・二)

「海蔵小誌」編集委員

- 上野 直記, 田端 哲龍
- 内田 金次, 木村 周吾
- 岡田 久保, 萩 秀晴
- 水原 寿, 水谷 実



80周年記念に海蔵の郷土史として編集発行されました。



学習のようすは5, 4, 3, 2, 1, 行動のようすはA, B, Cの3段階になり現在の形に近いものです。

右第一學期學校兒童會
副会長に任ずる
昭和三十一年四月十六日

榎並治子

第六學年C組

二教室増築 増築のためバラック校舎の北端20坪, 玄関3坪を無料解体払い下げ, 昭和27年に建てた校舎に2階建2教室をつなぎました。(服部組施工)

校地拡張 地主各位の協力を得て, 幼稚園舎の裏1,000坪を122万円で拡張しました。(坪当り1,220円)

地主 西脇 幸吉, 小林卯之松, 館 彦一, 館 義則
中山 芳夫, 武藤 一雄, 内山清五郎

右第二學期學校兒童會
代議員に任ずる
昭和三十一年九月十日
四日市市立海蔵小學校

榎並治子

第六學年C組

PTA会長
木村 数磨

給食室、
用務員室、
便所新築
(三三・九・二二)

中学校学習指導要領を告示
文部省、小学校学習指導要領
(三三・一〇・一)



給
食
室



用
務
員
室

給食室、用務員室、便所(総坪数74坪)を経費 1,934,000円で昭和33年7月25日、水重組の手で着工し、同9月22日竣工しました。

万古焼の収集

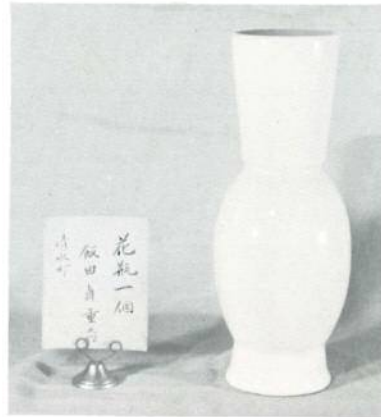
万古焼の産地として有名な海蔵地区にあって、地区の名士の方々の作品を末永く保存したいと考え、昭和31年より34年にかけて貴重な作品を数多くご寄贈いただき校長室、玄関に展示しました。

(寺本元校長 談)



(三三・一一・二五)
排水等規制法公布
公共用水域水質保全法・工場

PTA会長
竹内 好一



万 古 焼 の 歴 史

桑名の人、沼波弄山が朝日村小向に築窯し、永久に伝わるべき作として「万古不易」の名を冠したのが万古焼の起源である。

弄山は江戸向島小梅にも開窯して作陶した。後世、弄山の作品を「古万古」、小梅窯のものを「江戸万古」と称し区別した。

弄山歿後、正流は一時中絶の形となったが、その再興を図る人々が勢州各所に陶窯を築き、万古の名を冠した。射和万古、松阪万古、時中万古などがそれである。

中でも、森有節は弄山ゆかりの小向に築窯し、成型・文様・釉薬・施釉に新しい技法を開発し、優れた作品を残した。

有節万古は好評を得、桑名名物の土産物としてもてはやされた。桑名地方では、これを模して桑名万古の名で大量に製造されたが、鉄道の開通と共にすたれて、地の利を得た四日市の新万古にその主流をゆずった。

山中忠左衛門、森庄吉、堀友直らは、有節の作品を研究して成功し、その陶法を広く人に伝え奨めたため、末永、東阿倉川に窯を築くものが次第に増えた。殊に水谷寅次郎が石炭窯に成功して以来、大正焼として安価で豊富な種類の製品が提供されるようになった。近年新しい設備が導入され、万古急須、花器土鍋・食器など、多岐にわたる製品を生産し、輸出も盛んである。

青年作家数名は中央展に入選し、実用品視されていた万古焼を、近代的な美術品として再評価させている。(天野宏文)

伊勢湾台風のため校舎倒壊
(三四・九・二六)

「日本学校安全会」発足
(三五・三・二)

校長
生川 専吉

PTA会長
中島 基喜

を全面实施(三六・四・一)
三三年告示)による教育課程
小学校新学習指導要領(昭和

PTA会長
日比 義平

体育館新築
(三六・五・三二)

PTA会長
辻 謙一



そだての心

昭和34年頃は作文教育が非常に盛んで、PTAでは「そだての心」を発行しました。その後、作文の会から全国表彰を受けました。

四・Dの教室



伊勢湾台風

昭和34年9月26日、伊勢湾台風のため講堂と第四校舎が全壊しました。



講堂のステージ付近



伊勢湾台風で講堂が全壊したため、鉄骨造、丸型、鉄板葺吸音屋根、ステージ付(175坪)の体育館が予算980万円で、水重組の手によって完成しました。

名四国道完成
(三八・二・一六)

全国PTA協会発足
(三八・三・一六)

PTA会長
熊本又八郎

校長
田中正次郎

PTA会長
中島 基喜

東海道新幹線営業開始
(三九・一〇・一)

会開催(三九・一〇・一〇)
第十八回オリンピック東京大

市指定研究発表会(算数)
(三九・一一・二〇)

校長
義村 昌郎

PTA会長
水谷幸二郎

鉄筋三階建校舎完成
(四〇・七・六)

鉄筋三階建校舎建設の経過



38・8・3 海蔵小学校建設協力会を結成。

委員長 山本 貞三 副委員長 石崎茂一郎
水谷幸二郎

常任委員 熊本又八郎, 川地喜一郎, 伊藤 秀一
竹内 好一, 熊本 捨松, 児島 清夫
中島 貞男, 辻本吉太郎, 小山 由松
辻 謙一

顧問 日比 義平, 伊藤 泰一, 笹岡 鉄男

39・5・1 バラック校舎約100坪を払い下げ取り壊す。
(水重組が3万円で落札)

木造二階建校舎を東西の方向に移転。

39・10・10 地鎮祭および工事着工。大宗組および岡田工業。

40・7・6 鉄筋三階建完成。

建築面積 243坪, 延 591坪

普通教室18, 天体観測室1, 便所7, 昇降口3

階段9, 給食配膳室3

付設工事

仮設便所・自転車置場・足洗場

新校舎建設協力賛助金の募集

賛助金額 4,881,290円

備品の調達 児童机および腰掛 800, 教卓18

40・9・30 北校舎10教室, 体育館東の便所を取り壊す。



体育倉庫竣工

(四一・三・三一)

PTA会長
山本喜之助

PTA会長
花井 克巳

校 長
松野 俊雄

PTA会長
井垣 高雄

壊し(二十三年建設のもの)
北側二教室、南側二教室取り

(四三・五・一一)

PTA会長
熊本 陶三

木造管理棟取り壊し

(四四・七・一一)

簡易プール竣工

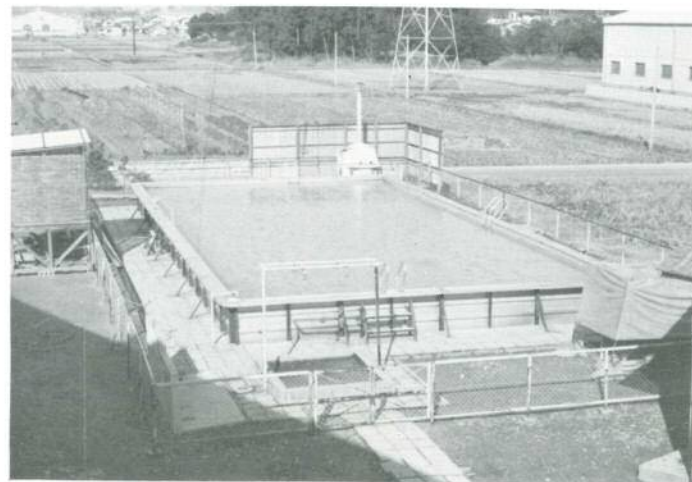
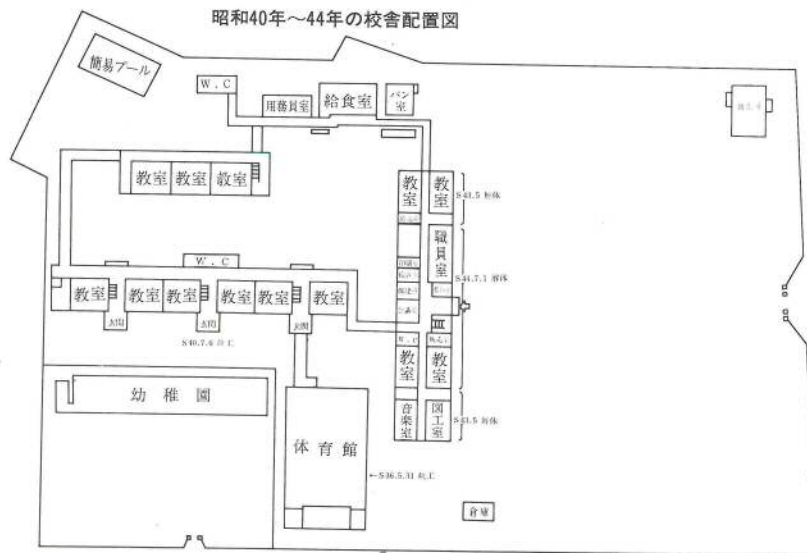
(四四・七・三)

昭和27年～39年の校舎配置図



体育倉庫(2間×6間 12坪)

昭和40年～44年の校舎配置図



簡易プー ル

管理棟竣工
(四五・三・二五)

校長 加藤 栄一
PTA会長 山本喜之助

交通安全対策基本法公布
(四五・六・二)

管 理 棟 建 設

44・6・13 着工，伊藤彦組。

44・7・24 海蔵小学校建設委員会結成。

委員長 山本 貞三， 副委員長 児島 清夫
熊本 陶三

委員 中島 貞男，水谷幸二郎，川地喜一郎
伊藤 秀一，竹内 好一，熊本 捨松
辻本吉太郎，小山 由松，辻 謙一
水谷 義一，山本喜之助，中尾田鶴子
竹内 寛，太田友三郎，奥岡 米治
本多 久志，稲垣 文雄

顧問 伊藤 泰一，日比 義平，樋口 政夫

管理棟 1,241,195m²

校長室 1， 職員室 1， 保健室 1
放送室 1， 更衣室 1， 宿直室 1
印刷室 1， 図書室 1， 視聴覚室 1
普通教室 4， 便所 3

地元寄付 130万円

職員机，ロッカー，校長室机，椅子
応接セット



管理棟の地鎮祭



完成した管理棟

校地拡張
(四九・三・三)

プレハブ特別教室新築
(四九・三・三二)

校長 伊藤 忠男
PTA会長 山本 悦雄

謝状を受ける
海蔵地区交通安全母の会、感
(四九・六・九)

進委員会結成
海蔵小学校百周年記念事業推
(四九・一〇・八)

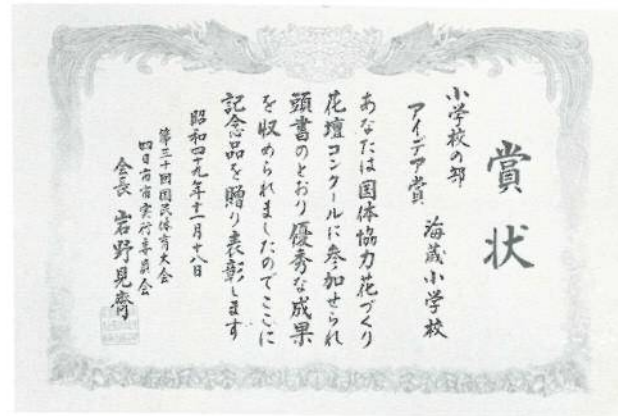
校地拡張

建設委員長，山本貞三氏の努力により，出張所二階建物敷地の代替地として校地の西 153坪を 456万円で購入。

地主 西脇 幸吉，小林美代子，内山 良一，館 宗三郎

プレハブ特別教室

家庭科室 1，理科室 1，図工室 1， 198㎡
渡り廊下 72.6㎡
本体 6,183,000円， 給水配管，電気配線 300,000円

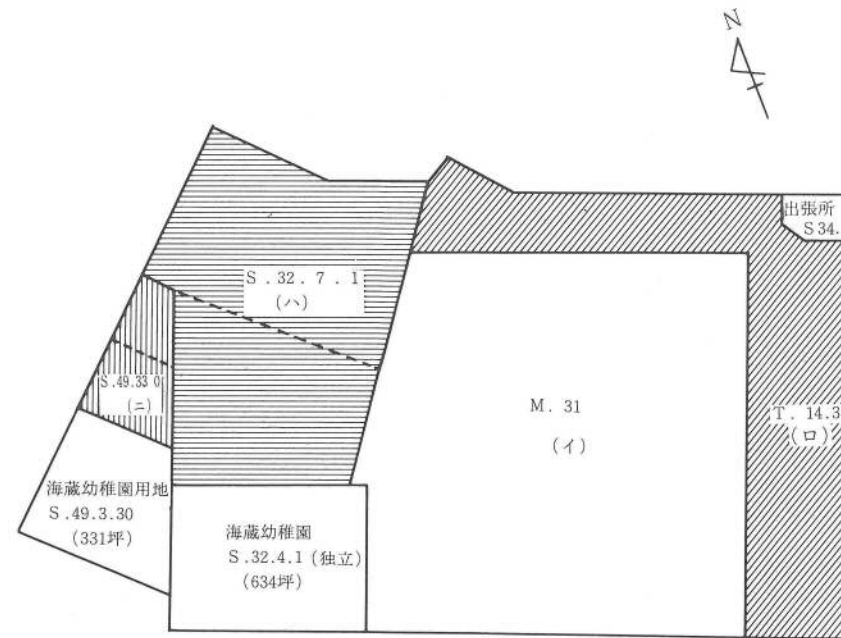
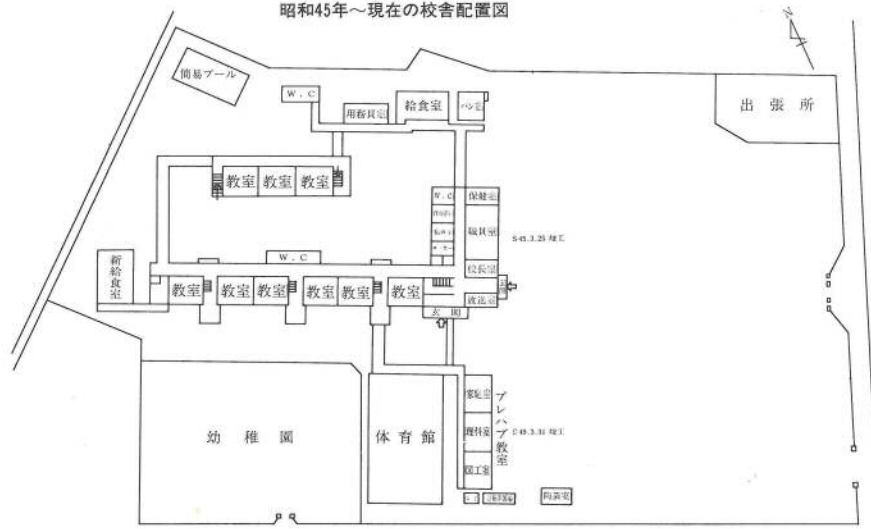


(四九・一一・一八)
 ールでアイデア賞を受ける
 国体協力花づくり花壇コンク

学校図書館奨励賞を受ける
 (四九・一二・二二)

海蔵小学校 校地拡張図

昭和45年～現在の校舎配置図



- (イ) 明治31年 水車校舎より現在地へ移転当時の校地 (約2172坪)
- (ロ) 大正14年 大正13年の阿倉川耕地整理により、出張所南を流れていた「用無川」は埋めたてられ、大正14年に校地は拡張されました。(約1578坪)
- (ハ) 昭和32年 児童数の増加にともない拡張しました。(約1000坪)
- (ニ) 昭和49年 給食室用地として拡張しました。(153坪)

別れ式」挙行
小杉、みゆきが丘児童の「お

PTA会長
浅岡 功

新給食室完成
(五〇・八・三〇)

百周年記念式典挙行
(五〇・一〇・四)

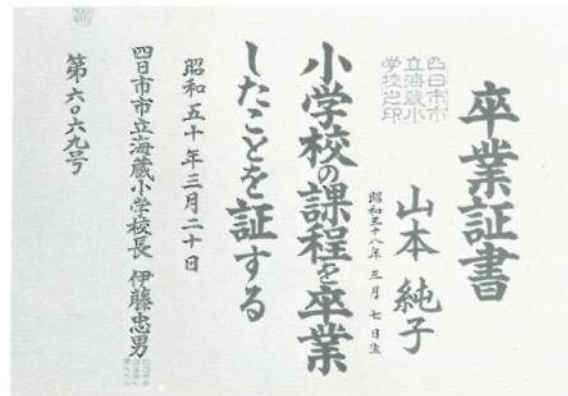
百周年記念地区運動会
(五〇・一〇・五)



昭和50年2月7日付の朝日新聞に掲載された「卒業記念万古焼づくり」



小杉、みゆきが丘の児童 137名が新設の大谷台小学校へ転出する「お別れ式」



昭和50年3月20日卒業生のうち、最終番号の卒業証書



新しく完成した給食室